

1 武蔵野市の目指す環境像

(1) エコシティむさしの

環境像とは、武蔵野市が中長期的に目指すまちのあり方です。
市民・事業者・行政（市）の各主体に共通する目標として掲げます。

～みんなでめざそう・エコシティむさしの～

市民がつくる 持続可能な
自然の営みを活かす
安全・安心で健康に生活できるまち

家庭では、太陽光等の自然エネルギーの利用が進んでいます。日用品を購入する際には、本当に必要なものかどうかをよく考え、長く使える良いものを選ぶようになったので、ごみも減っており、資源節約型の生活がすっかり根付いています。

歩道は広くなり、街路樹の木陰も心地よく、歩行者や自転車にとって快適です。近所には自然環境を生かした公園があり、多くの市民が季節の移り変わりを楽しんだり、憩いの場として利用しています。

勤務先のビルは、環境負荷が少なく、長期間にわたって使用できる建築物として評価されています。取引先との会話では、会社の環境配慮の取り組みに関する話題が多くなっています。消費者の志向が、安さや豪華さといった観点から、環境に配慮した製品やサービスに変わってきています。製品の原料の産地や輸送のための移動距離、製品を作ってから廃棄するまでに必要な資源・エネルギーの量、それに安全性、こうした項目に対する消費者の関心が高くなり、生産者と消費者の情報の共有が進み、安全なものづくりが徹底しています。

市の公園や近隣の民有地の緑を市民グループで管理する活動もおこなわれており、雑木林や屋敷林のケヤキ、玉川上水の水辺等、武蔵野市らしい景観が維持されています。また、自宅の周辺に公園、緑地等がバランスよく配置されているとともに、農地も保全されているため、市民にとっての災害時におけるオープンスペースとして安心感を与えています。

生活や事業活動のあらゆる場面で、環境の容量を超えないライフスタイルが無理なく定着しており、武蔵野市は持続可能な発展の軌道に乗り、順調に歩んでいます。

(2) 「エコシティむさしの」の実現に向けた道すじ

本市は様々な資源や市民活動がぎっしりと凝縮したコンパクトなまちとして、暮らしやすいまち住んでみたいまちという高い評価を得ています。温暖化や生態系の崩壊という地球規模の環境問題は、高度に都市化が進んだ本市において、総合的に解決を図るべき喫緊の課題です。

今後、持続可能性（サステナビリティ）という視点を重視し、地球環境への負荷の低減に向けたまちづくりを進め、現在の高い評価を維持していくため、中長期的なまちのあるべきすがたを見据えた、短期的な施策を定めます。

※「持続可能性」とは「地球の有限性を意識し、環境の許容限度の範囲内において社会経済活動をおこなう」ことをいいます。

①地球温暖化防止のために、市域の温室効果ガス排出量の大幅な削減を目指します

地球温暖化防止の実現のためには、温室効果ガス排出量を気候に悪影響を及ぼさない水準まで削減することが必要です。

本市では、国や東京都の目標を参考に、中

長期の大幅な削減目標を掲げます。短期的な削減目標は、中期目標達成ための通過点と捉え、計画最終年度である2015（平成27）年度に達成すべき数値とします。

<武蔵野市域の温室効果ガス排出量の削減目標>

長期目標：2050（平成62）年度までに、1990（平成2）年度比60～80%削減します。

中期目標：2020（平成32）年度までに、1990（平成2）年度比25%削減します。

短期目標：2015（平成27）年度までに、1990（平成2）年度比11%削減します。

②生物多様性の保全に配慮した生活・暮らしを営み、武蔵野市の自然を守り、育てます

豊かな生物多様性は生活・暮らしに、様々な恵みをもたらしており、それらを守り育てることは持続可能な都市の構成要素として重要です。

武蔵野市の生活・暮らしは、自給できる食料の量や率を考えれば分かるように、生物多様性に支えられている地球とのつながりなくしては成り立ちません。私たちはそのことを認識し、生物多様性に配慮したライフスタイ

ル、ビジネススタイルへの転換を図ることを目指します。

都市においても、その土地特有の気候や地形、土壌、地下水等の自然環境の基盤があり、それらの特性は自然を回復させる手がかりとなりえます。武蔵野市では、緑の生活環境を維持、拡充し、生態系保全を前提とした自然環境を目指します。

<武蔵野市における生物多様性保全に向けた目標>

長期目標：2050（平成62）年度までに、武蔵野市らしい自然を保全・創出します。

中期目標：2020（平成32）年度までに、生物多様性保全に配慮した暮らしへの転換を図ります。